

今回、農水省「輸出用GAP等普及推進事業」による「輸出用GAP(仮称)」と、「JGAP 2020 Basic」を並行して開発

日本の農業にとっても重要な年となる「2020年」に向けてのGAPとの意

「輸出用GAP(仮称)」と「JGAP 2020 Basic」の概要

スキーム名	総合規則	農場用CPCC	団体事務局用CPCC
輸出用GAP(仮称)	輸出用GAP(仮称)	輸出用GAP専用項目 + JGAP 2020 Basic	輸出用GAP(仮称)
JGAP 2020 Basic	JGAP 2020 Basic	JGAP 2020 Basic	JGAP 2020 Basic

※CPCC: Control Points and Compliance Criteria。管理点と適合基準

- ❖ 事実上の国際的な食品安全指標であるGFSIガイダンスドキュメントの内容を満たす
※輸出用GAP(仮称)のみ
- ❖ 農林水産省「農業生産工程管理(GAP)の共通基盤に関するガイドライン」への完全準拠
- ❖ 日本の農業の実態を踏まえた農業者が取り組みやすいものとする(管理点の内容を補足する取組例・備考の付加、わかりやすい参考資料の作成など)
- ❖ 生産性の概念、人権・労務管理の導入など、先進的な内容とすること
- ❖ 農業及び環境の持続可能性を高めるものとする

- ✦ JGAP 2020 Basicは、JGAP 2010/2012の認証農場が取り組みやすい、現行JGAPの水準を基本とする。
- ✦ 生産性、人権・労務管理、環境保全等、JGAPを特徴づける管理点は、JGAP 2020 Basicにも導入する。
- ✦ 輸出用GAP(仮称)の審査工数は、現行JGAP 2010/2012の1.25~1.5倍程度、JGAP 2020 Basicの審査工数は、現行JGAPと同程度となるようにする。
- ✦ 必須・重要等のレベル分けは両者とも共通とする。
- ✦ 青果物・穀物・茶を通じた共通の管理点とすることを基本とする。些少な相違点については取組例・備考で対応。その他の場合、必要に応じ専用項目を設ける。

3

- ✦ 本パブリックコメントを経て、平成27年度内に完成させる予定。
- ✦ 輸出用GAP(仮称)の扱いについては、3月下旬に開催予定の「GAP戦略協議会」においても検討。
- ✦ 平成28年度は、新たな基準書の内容を補足する参考資料の作成、研修資料の作成を進める。また、基準書の英訳作業も実施。
- ✦ 新たな基準書の内容を踏まえた研修の実施、審査・認証機関との調整等、必要な準備を進め、年度後半には審査・認証を開始することを目標。

(以上)

4